

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 4月 30日

事業所名 ゆとりの里

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	活動事に部屋分けをしている。	
	2	職員の配置数は適切である	67%	33%	障がい児の特性に考慮したうえで職員の配置を考えている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	83%	17%	トイレなどにスロープがついているが、建物の構造上、玄関に段差もある。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	50%	50%	こども達の支援目標の設定は出来ているが、振り返りの時間が少ないよう	に感じる。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	17%	保護者さんのニーズに対しては、傾聴し実現出来るように努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	弊社のホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	外部の評価を行っていない、必要に応じて、外部からの評価を実施するよう	検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	67%	33%	内部にとどまらず、外部の研修機会を確保している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	83%	17%	左記の通り、実施しているが、個々の発達状況に応じてアセスメントを実施する事も必要に感じている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	33%	67%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	スタッフ間、こども達の意見を聞き、活動内容を決めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	50%	50%	固定化する事も必要に感じているが、飽きがないように活動を検討している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	67%	33%	利用頻度などにもよるので課題の達成状況に応じて支援内容を検討している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	83%	17%	左記の通り、実施し、作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	33%	67%	役割分担は特に行ってない。朝の打ち合わせは検討したい。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	33%	67%	振り返り、気づいた点など、翌日に持ち越し気味になっている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	問題ないように感じている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	50%	50%	個々の状況によりけりですが、必要性を感じ次第行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	33%	67%		

	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達管理責任者、または、管理者が参画している。
関係機関や保護者との連携	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%	17%	学校にもよりますが、直接学校に連絡可能な所には情報の共有を実施出来ている。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	医療的ケアの必要な児童の受け入れを行っていない。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	100%	特に行つた経緯がありません。そのような機会があれば情報共有した
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	情報共有は積極的に行っている。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0%	100%	特にありません。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	17%	83%	地域のこどもと一緒に遊ぶ機会が年に1回～2回程度あった。特に交流する機会を設けていない。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	参加していない。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎の際に保護者さんへ日々の様子を伝えている。 状況によっては電話連絡などをおこなっている。
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	100%	行っていない。
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	67%	33%	契約時に説明を行っている。
保護者への説明責任等	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	17%	相談事に対しては、親身になって応じるよう心掛けている。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	行っていない。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	左記の通りである。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	33%	67%	会報の発行は行っていないが、ホームページにて活動した内容をブログ形式で掲載している。
	35 個人情報に十分注意している	100%	0%	左記の通りである。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	83%	17%	現状、意思の疎通が困難な児童はいないが、配慮してきた経緯もある。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	図っていない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	83%	17%	左記の通りである。また、マニュアルに変更が生じた際にも周知するようになっている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年2回行っており利用児童にも参加してもらえるように行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	左記の通りである。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	身体拘束が必要な児童はいませんが、過去に左記の通り実施した経緯はある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	33%	67%	契約時に保護者さんよりフェイスシートを記入頂いており、そちらに食物アレルギーを記載する項目をついている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	17%	ひやりハット、事故報告書などは職員間で周知出来るようにしている。